

氏名 余 財 伸 一

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 762 号

学位授与の日付 昭和 51 年 6 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 性腺刺激ホルモン分泌に関する臨床的研究
第 1 編 膠原病患者に於ける性腺刺激ホルモン分泌能について
第 2 編 Gonadotropins 分泌に及ぼす glucocorticoids の影響

論 文 審 査 委 員 教授 関 場 香 教授 水 原 舜 爾 教授 木 村 郁 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は膠原病患者及び glucocorticoids 投与時の性腺刺激ホルモン分泌動態に関する研究である。

第 1 編：膠原病に罹患するのは、圧倒的に女性が多いことより、女性ホルモンが膠原病の発症及びその病態に深く関与していると推定されているので、本編においては、代表的な膠原病である systemic lupus erythmatosus (SLE) と rheumatoid arthritis (R A) における性腺刺激ホルモンの分泌動態を明らかにせんとした。SLE 34 例、R A 15 例を対象とし、血漿性腺刺激ホルモン(LH及びFSH)について、基礎値及び Luteinizing hormone releasing hormone (LH-RH) 負荷時の反応性について検討した。SLE 患者の基礎性腺刺激ホルモン値は正常であったが、内 19 例においては LH-RH に対する反応は正常対照者に比して増大しており、性腺刺激ホルモン分泌能の亢進が認められた。一方 R A 患者では、これらの異常は認められなかった。この結果から、膠原病においては本態的に性腺刺激ホルモン分泌異常があるとは結論出来ず、SLE 患者に認められた性腺刺激ホルモン分泌の亢進は、SLE の病変が性腺系に及んだために二次的に惹起されたものであることが推定された。

第 2 編：(各種疾患)の治療薬として広く使用されている glucocorticoids (GC) の大量長期投与は、しばしば月経異常を来すことは知られている。本編においては、29 例の SLE 患者を対象とし、性腺刺激ホルモンの基礎値及び LH-RH 負荷時の反応に及ぼす GC の影響について検討した。GC の大量投与は、性腺刺激ホルモンの基礎値を低下さす

傾向が認められたが、GCの投与総量より1日投与量との間に逆相関傾向が認められた。又LH-RH負荷時の性腺刺激ホルモンの反応量もGC1日投与量との間に強い逆相関関係が認められた。この成績からGCによる性腺機能の抑制の少くとも一部は、下垂体レベルでおこり、GCが性腺刺激ホルモン分泌を抑制することに基づくものである事が判明した。

論文審査の結果の要旨

本研究は膠原病患者の性腺刺激ホルモン分泌動態に関する臨床的研究であるが、本症に於て本態的に性腺刺激ホルモンの分泌異常があるとは言えないとし、又本症の治療に用いられるglucocorticoidsの使用に際し、性腺機能との関連に於て、新しい知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。